

ペルー 今シーズンのブドウ輸出は10%以上減少の見込み

FreshPlaza 2024年1月19日

8月に始まり通常4月まで続くペルー産食用ブドウの輸出シーズンの終わりまで残り3か月であるが、輸出関係者らは、主に生産に悪影響を及ぼした気候の変動により、輸出量が前シーズンより10%以上減少すると予想している。出荷量への実際の影響は、出荷シーズンの終盤に予想される。

ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のアレハンドロ・カブレラ事務局長は、2023年12月までの輸出量は4,720万箱(8.2kg/箱)で、2022年末の4,120万箱よりも多かったと述べた。(以下「」は同事務局長の発言)

しかし、サイクロン「ヤク」やエルニーニョなどの気象現象により、出荷シーズンが約25日早まり、ペルーの北部と南部の産地の出荷量に悪影響を及ぼした。例えば、北部地域からの出荷は当初11月には好調だったものの、最終的に30%以上減少した。

「2022-23年度には、8.2kg箱で7,140万箱を出荷した。これを踏まえ、前回の予測で既に、輸出が10%減少すると試算した。落ち込みがもっと大きくなると予想されるため、現在生産者から情報を集めている。」

幸いなことに、2023年12月末時点で46%のシェアを持つ主要出荷先である米国など、一部の国では価格が良好であった。今シーズンの米国のブドウ生産量も悪天候のために少なかった。その結果、米国の輸入ブドウの需要は高くなった。

「米国の国内供給の減少が輸入需要を押し上げたため、ブドウの価格が例年よりも良かった週もあった。この高値が出荷量の減少を補う可能性がある。」しかし、同氏は、米国の状況は標準的ではないと明言した。これは一時的な状況であり、すべての輸出先に当てはまるわけではない。

カブレラ氏によると、南アフリカ、オーストラリア、チリ、ブラジルなど、出荷時期がペルーと重なる国々は、輸入国への出荷量を増やすことで利益を得る可能性がある。同氏はまた、生産者が気候変動への耐性の高いブドウ品種に移行することを示唆し、品種の転換を評価することが重要であると強調した。現在は70%の品種がライセンス制で、生産性が高く、味が良い。残りの30%は従来品種で、新しい品種に転換される可能性がある。ライセンス品種のスイートグローブ、アリソン、オータムクリスピー等は、気象の影響を受けにくい。

出典: gestion.pe

フィリピン パナマ病と物流問題でバナナの輸出が減少

FreshPlaza 2024年1月19日

国連食糧農業機関(FAO)は、主にバナナフザリウム萎凋病熱帯レース4(TR4)の蔓延と物流上の問題により、昨年のフィリピンのバナナ輸出量が減少したものと見ている。FAOの2023年バナナ市場レビューの暫定版によると、フィリピンの輸出量は約3%減の220万6千トンで、引き続きグアテマラとエクアドルに次ぐ世界第3位のバナナ輸出国となっている。

前述の課題にもかかわらず、フィリピンは依然としてアジアにおける主要なバナナ輸出国である。FAOのデータによると、2023年にはフィリピンの約1万5千の農園がTR4の影響を受け、同国のバナナ産業の将来に深刻な懸念を引き起こしている。また、日本に輸入されるフィリピン産バナナの品質に影響を与えている物流上の問題も、さらなる課題をもたらした。

世界のバナナ輸出はわずかに改善し、2022年の1,912万トンから1,917万トンに増加した。しかし、FAOは、気象条件や経済的背景の違いにより、世界の主要な貿易相手国の間で大きな相違があると指摘した。TR4のフィリピンでの蔓延と、ペルーとベネズエラでの憂慮すべき存在は、生産の損失と財政的負担を引き起こしている。

出典: philstar.com